

令和 6 年 9 月 9 日現在

機関番号：22703

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10850

研究課題名（和文）助産師に焦点を当てた医療事故判例分析の医療安全教育への活用

研究課題名（英文）Application of Medical Malpractice Case Analysis Focusing on Midwives to Medical Safety Education

研究代表者

山崎 由美子（Yumiko, Yamazaki）

川崎市立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：00341983

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、医療事故判例を再発防止の観点から、特に助産師に焦点を当て分析し、助産師教育や卒後教育に役立てることを目的とした。研究1では、過去20年の医療過誤裁判から助産師に関する事例を収集し、再発防止対策を検討した。主な争点は医師への報告義務や異常時の対応義務などであり、助産師の証言や記録の重要性が明確に示された。研究2では、分娩に関わる医療事故を経験し勝訴判決を受けた被害者3名を対象に面接調査を行い、被害者の視点から教材に反映させる取り組みが行われた。研究3では、医療事故判例の実践的活用に向けた研修を開催し、教材の評価や医療事故に対する理解の深化が確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究では、専門職や医療事故被害者の協力を得て、教材の評価を行い、課題を抽出して修正を行った。また、助産師と大学院生を対象に研修を開催し、教材の評価や課題の抽出を行った。研修では、医療事故に関する理解度や類似した経験との比較、被害者のメッセージに対する感想などを収集した。その結果、医療事故の発生可能性や事故から回避への方向転換への理解が深まった。しかし、医療事故に対する向き合い方や実践への結びつけ方には改善の余地があった。医療施設や学会などを通じて本研究で構築した医療事故判例を公開し、教材の質を向上させた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to analyze medical malpractice court cases from the perspective of preventing recurrence, with a particular focus on midwives, and to apply the findings to midwifery education and post-graduate training. The study was divided into three parts. In Study 1, cases involving midwives were selected from medical malpractice trials over the past 20 years, and preventive measures were analyzed. Key issues included the duty to report to doctors and to respond to abnormalities, highlighting the importance of midwives' testimonies and records. In Study 2, interviews were conducted with three victims of childbirth-related medical accidents who won their cases, incorporating their perspectives into educational materials. In Study 3, training sessions were held using medical accident case law, and the teaching materials were evaluated, confirming an improved understanding of medical accidents

研究分野：助産師教育

キーワード：医療事故 裁判例 助産師 教育

## 1. 研究開始当初の背景

近年、無痛分娩を巡る母子の死亡や重度後遺障害発生等の重大事故が次々に報告され、国民の不安が高まっている。厚生労働省は、無痛分娩の安全性向上のためにインシデント・アクシデントの収集・分析・共有の実施を行い、発生した個々の有害事象ごとに原因や背景要因を分析し再発防止策を講じるよう医療者に求めている。このように、医療事故の再発を防止するためには過去の事例を正しく認識し、それを教訓として学ぶ姿勢をもつことが重要である。医療事故判例を分析するのもその一つであり、医療者間が複雑に絡み合う中で生じた過失の存在が現在の医療水準に照らしどのように認定されているのか等、検討を加え課題を見出すことは安全・安心な医療を実現するために非常に重要なことだと考える。

このような状況において、「誰に対して行われる医療安全教育に役立てるのか」という視点をもって医療事故を分析すれば、対象者に有益かつ実践の場で活用することができる再発防止策を導き出すことができるのではないかと考えた。すなわち、助産師に焦点を当て検討した事例を蓄積することは助産師教育や卒後教育に有効ではないかと考えた。

## 2. 研究の目的

本研究は、医療事故判例を再発防止の観点から分析し、助産師教育や卒後教育に役立てることを目的とする。これにより、助産師に焦点を当て分析した過去の事例を体系的に収集することができ、実践の場で活用できる医療安全教育システムを構築することが可能となる。過去 20 年間の医療事故判例を対象に繰り返し起こされる事故の抜本的な解決策の検討ができる点、判例は法律データベース等で公開されているものだけでなく、勝訴判決となった被害者からの提供を受ける点で、これまでの事故分析と大きな違いがある。判例とともに被害者の存在が感じられる本研究は、これからの医療を担う医療従事者教育に役立つものと思われる。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究 1 法律データベース、裁判所ホームページによる判例収集と事故分析

過去 20 年の判例を法律データベース(T K C ロライブラリー等)、裁判所ホームページ(裁判例情報)を用い検索し、助産師の視点で再発防止対策を検討する。これらの判例は、ホームページに公開する。

### (2) 研究 2 勝訴判決となった被害者への面接調査と事故分析

医療事故被害者が組織する団体を通して研究協力者を募集し、分娩に関わる医療事故を経験し勝訴判決を受けた女性を対象に面接調査を実施する。面接では属性他、医療事故を経験してから現在に至るまでの気持ちや印象に残る出来事、再発防止への思い等について尋ねる。調査は医療事故被害を想起し精神的負担が大きいと考えられるた

め、体験をある程度落ち着いて話せる状況にあることを考慮し、被害から2年程度経過していることを条件とする。事故分析は調査1と同様であるが、被害者から提供を受ける判例のためその取り扱いには十分注意を払う。被害者の同意たうえでホームページに公開する。これは被害者の要望により、いつでも取り下げることが可能とする。

#### (3) 研究3 医療事故判例の実践的活用に向けた有効性の評価、課題の抽出、修正等

分娩施設や学会等で、本研究で構築した医療事故判例の実践研修を実施する。研修終了後、同意が得られた助産師に質問紙等を配布し、1か月後郵送にて返却を依頼する。有効性の評価は、質問紙調査(閲覧回数や利用しやすさ、実践でどのように活用できたか、再発防止対策の理解度は10点満点のVisual Analogue Scale等)を実施する。課題の抽出及び修正を行い、実践の場での活用を促進できる教材を作成する。

### 4. 研究成果

#### (1) 研究1

法律データベース(TKCローライブラリー)を用い、1999~2021年の医療過誤裁判を検索したところ127件あったが、そのうち助産師の行為が主な争点になったものは31件あった。31件中、助産師の過失が認定された原告勝訴判決は21件あった(内訳:高等裁判所判決3件、地方裁判所18件)。その中には民事と刑事、両方で争われた事案も含まれる。再発防止対策の検討を行うため、これらの主な争点を分類したところ、医師への報告義務、陣痛促進剤投与中の経過観察義務、分娩監視装置の装着・経過観察義務、異常時の対応義務等に過失があった。また、裁判における助産師の証人尋問に対する信憑性や、医師-助産師間の証言の食い違いを認定する場面において、記録の重要性が問われた事例もあった。

研究の成果は、ホームページ「助産師に焦点を当てた医療事故判例分析の医療安全教育への活用」に公開した。

最終年度には、近年における医療過誤裁判の収集を試み、3事例の分析を追加した。

#### (2) 研究2

分娩に関わる医療事故を経験し勝訴判決を受けた女性(3名)を対象に、「今の気持ち、そして助産師に伝えたいこと」等について調査することができた。医療安全における助産師教育は、被害者に真摯に向き合うことが重要であるため、対象者から同意を得たうえで、これらを「被害者からのメッセージ」として教材の最終ページに追加することにした。

被害者から提供を受けた判例のうち、助産院助産師の責任が問われたケースでは、「転院・搬送先医療施設に関する合意」「情報提供義務」について、患者と医療者の信頼関係の構築の上に成り立つインフォームドコンセントの実施という対策を検討した。

#### (3) 研究3

専門職および医療事故被害者の協力を得て教材の評価(教材全体の量、読みやすさ、1判例の所要時間、追加説明が必要な箇所、対応策の追加等)を行い、課題を抽出し修正を

行った。

助産師と大学院生(助産コース)を対象に研修を開催し、教材の評価や課題の抽出を行った。研修では、教材を通じて医療事故に関する理解度や類似した経験との比較、被害者のメッセージに対する感想等を収集した。

その結果、医療事故はいつでも、誰でも、どこでも起こる可能性を受講者が理解できたことがわかった。また、この研修を通じ、事故を完全に防ぐことは難しいという現実を理解しつつ、医療事故という有害事象から回避へと方向転換しうる重要なポイントがあること、これに気づくか否かにより事故の頻度や内容、程度が異なること等への理解が深まった。

しかし、医療事故に対する向き合い方や実践への結びつけ方には改善の余地があるため、分娩施設や学会等で、本研究で構築した医療事故判例を公開した。アンケート結果を基により具体的な改善策を検討し、教材の質を向上させた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 山崎由美子	4. 巻 36 (1)
2. 論文標題 何故、助産師の主張が認められなかったのか-医療過誤裁判から再発防止への課題を検討する-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本助産学会誌	6. 最初と最後の頁 137-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3418/jjam.JJAM-2022-0001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎 由美子, 櫻井 亜古, 西坂 真理子	4. 巻 23
2. 論文標題 母子同室時の安全なケア-医療事故裁判例の検討-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本医療マネジメント学会雑誌	6. 最初と最後の頁 31 ~ 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yumiko Yamazaki	4. 巻 -
2. 論文標題 A necessary challenge to avoid missing the turning point to avoid medical malpractice.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Asian Conference on Social Sciences 2023 Official Conference Proceedings. <a href="https://papers.iafor.org/submission70521/">https://papers.iafor.org/submission70521/</a>	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 YAMAZAKI Yumiko
2. 発表標題 Medical Incidents during Rooming-In Practices: What is indispensable to midwives to provide safe care?
3. 学会等名 24th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山崎由美子
2. 発表標題 助産師の主張が否認された医療事故裁判の検討 - 紛争を防ぐための課題 -
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山崎由美子
2. 発表標題 判例及び産科医療補償制度原因分析報告書の事例から考える安全な無痛分娩への課題
3. 学会等名 第35回日本助産学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 YAMAZAKI Yumiko
2. 発表標題 The importance of documentary evidence in malpractice trials involving childbirth
3. 学会等名 The 25th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山崎由美子
2. 発表標題 医師と助産師の連携体制が問題とされた裁判例の検討.
3. 学会等名 第37回日本助産学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 YAMAZAKI Yumiko
2. 発表標題 Perinatal malpractice litigation and midwives' responses: risk management and legal analysis.
3. 学会等名 The Asian Conference on Social Science 2024. (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関